

法学部A方式Ⅱ日程・国際文化学部A方式
キャリアデザイン学部A方式

3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ペー ジ	科 目	ペー ジ
政治・経済	2～38	日 本 史	40～56
世 界 史	58～73	地 理	74～84
数 学	86～91		

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 科目の選択は、受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。
一度選択した科目の変更は一切認めない。
4. **数学**については、定規、コンパス、電卓の使用は認めないので注意すること。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

6. 問題冊子のページを切り離さないこと。

(世界史)

〔 I 〕 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

王安石は今からほぼ1000年前の1021年に臨川(現在の江西省撫州市)で生まれた。父親の任地の江寧府(現在の南京)をはじめとする江南の地で育ち、第四位という優秀な成績で科擧⁽¹⁾に合格したのちも、おもに江南の地で官職を重ねた。地方官は中央官に比べて出世には不利であったものの給料は良く、早くに父親を亡くし、家族を養っていく必要のあった王安石にとっては、地元で地方官に就く方が望ましかったのである。しかし、皇帝^(a)は優れた才能と清廉さで広く知られた王安石を放っておかなかった。1067年に皇帝の側近に抜擢されると、1070年には宰相となり、新法と呼ばれる政治改革を行っていくことになった。その頃、宋は深刻な財政危機に直面していたが、それは宋が建国以来ずっと抱えていた構造的な問題によるものでもあった。

宋の建国者であった趙匡胤は五代の最後の王朝^(b)において禁軍の総司令官であった。皇帝に即位すると、安定的な皇帝独裁体制を構築するために、地方において軍閥化していた藩鎮の力を削ぎ、皇帝に直属する禁軍の力を強めていったが、全て傭兵からなる禁軍の増強には多額の軍事費を要した。さらに北辺では契丹の遼⁽²⁾、タングートの西夏といった王朝が強勢であり、これらに備えるために辺境まで軍⁽³⁾を派遣することになり、大量の軍糧を調達・運搬する必要が生まれるなど、軍事費はさらに増大することになった。1004年に遼との間で澶淵の盟⁽⁴⁾が結ばれ、1044年に西夏との間で慶暦の和約^(c)が結ばれると、北辺情勢は一定の落ち着きを得たが、軍事的な備えは維持され、北宋中期には100万人が北辺に駐屯していたとも言われる状態で、軍事費の負担は大きいままであった。さらに宋からは遼と西夏に歳幣が送られるようになり、その財政的負担も小さくなかった。また宋では、それまでの軍事政権的なあり方から文治主義に移行することで、安定した皇帝独裁体制の構築が目指され、軍人ではなく文官である官僚が政治を担うようになったが、同時に特定の部署や個人への権力の集中が嫌忌されたことで、官庁が増加し、官

僚が肥大化していくことになった。こうして、北宋においては税収のほとんどが軍事費と官僚への俸給に当てられることになったのである。また、大土地所有の拡大と自作農民の没落による税収の減少も大きな問題であった。自作農民には零細経営が多く、大土地所有者による高利貸しに頼らざるを得なかったことがその大きな要因であったが、⁽⁵⁾大土地所有者の下に入った小作には税役が課されない一方で、大土地所有者は小規模な土地の所有者より^(d)税が優遇されていたことも、その傾向を拡大させていた。当時の文献の記述から、人口の三分の一が税を負担しない小作であり、⁽⁶⁾納税者の8割が零細な自作農民で、その所有地は農地の2割程度に過ぎなかったとする説もある。

このような問題に対し、王安石は財政支出の合理化を図るとともに、大土地所有者の特権を抑制し、自作農民を救済することで、税収の確保を図っていった。そのため、従来の特権を守ろうとする官僚たちとの対立が不可避なものとなった。こうして、旧法党と新法党の対立が始まっていった。旧法党の指導者となったのは『資治通鑑』の編纂でも有名な司馬光であるが、彼は現在の山西省の出身であった。⁽⁷⁾宋学の基礎を築いたことで知られる程顥・程頤も旧法党を代表する政治家であったが、⁽⁸⁾彼らは現在の河南省の出身であった。このように、旧法党は古来から中国の政治の中心地であった華北地方の出身者が多かったが、一方の新法党は王安石と同じく新たに⁽⁹⁾経済の中心地となった江南地方出身の官僚が多く、旧法党と新法党の対立には北と南の対立、古い社会と新しい社会の対立という側面もあったと言える。

1076年に王安石は失脚して引退するが、その後も両党の対立は続いた。しかし時代の推移とともに単なる政治闘争に墮していった。1100年に画家としても著名で「風流天子」とも呼ばれた徽宗が即位すると、書画骨董を集めて取り入れた宦官の童貫が重用されるようになり、⁽¹⁰⁾やがてその童貫に取り入れた蔡京が宰相に登用された。蔡京は先代皇帝の下で新法党が強かった流れに乗って「新法党」を称し、政敵を「旧法党」として排除していった。しかし、蔡京は政治家としては無能で、新法の本質はまったく理解していなかった。彼の下で政治が腐敗し、失政が重ねられたことで、各地で反乱が起こるようになり、最後は靖康の変をもって北宋は滅亡した。

世界史

南宋では、蔡京が北宋滅亡の元凶とされた。そのため皮肉なことに、かつて王安石を生み、新法党の官僚を多く輩出した江南地方を中心とした南宋において、新法の評判は極めて悪く、朱熹⁽¹¹⁾も王安石を強く非難しており、これが長く王安石の評価として定着することになった。

問1 下線部(1)に関連して、宋代の科挙に関する記述として適切でないものを、

ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 地方で行われる第一段階の試験は州試と呼ばれた。
- イ 中央で行われる第二段階の試験は省試と呼ばれた。
- ウ 最終試験である殿試は趙匡胤によって始められた。
- エ 科挙官僚を輩出した家は官戸として税金を全て免除された。

問2 下線部(2)に関連して、遼(契丹)に関する記述として適切なものはいくつあるか。適切なものの合計数を解答欄にマークせよ。

- ア 建国者である耶律阿保機は渤海を滅ぼした。
- イ 契丹人の統治には猛安・謀克制が用いられた。
- ウ 北面官と南面官による二重統治体制がとられた。
- エ 道教の一派である全真教が創始されて流行した。

問3 下線部(3)に関連して、西夏では西夏文字という独自の文字が作られたが、その際に参考にされたと考えられる文字として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア ウイグル文字
- イ 漢字
- ウ ソグド文字
- エ モンゴル文字

問4 下線部(4)に関連して、澶淵の盟に関する記述として適切なものはいくつあるか。適切なものの合計数を解答欄にマークせよ。

- ア 現在の陝西省にあった澶州で締結された。
- イ 宋から遼に金と絹が送られることになった。
- ウ 遼は宋の兄に位置づけられることになった。
- エ 現在の北京まで国境が移されることになった。

問5 下線部(5)に関連して、大土地所有者による高利貸しを回避させるために、政府が農民に金銭や穀物を低利や無利子で貸し付けることにした制度として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 均輸法 イ 市易法 ウ 青苗法 エ 募役法

問6 下線部(6)に関連して、宋代の基幹的な税制度として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 一条鞭法 イ 戸調式 ウ 租庸調制 エ 両税法

問7 下線部(7)に関連して、『資治通鑑』と同じ編年体の歴史書として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 春秋 イ 書経 ウ 貞観政要 エ 新唐書

問8 下線部(8)に関連して、朱熹により「宋学の祖」とされ、程顥・程頤の師であった人物として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 欧陽脩 イ 周敦頤 ウ 蘇軾 エ 柳宗元

世界史

問9 下線部(9)に関連して、宋代の経済に関する記述として適切でないものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア ベトナム原産の占城稻の栽培が広がった。
- イ 景德鎮で作られた白磁は海外にも輸出された。
- ウ 11世紀末には政府発行の会子が全国で流通していた。
- エ 江南では囲田などの干拓による新たな農地開発が行われた。

問10 下線部(10)に関連して、徽宗に関する記述として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 南宗画の代表的な画家とされる。
- イ 金によって洛陽から拉致された。
- ウ 息子が南宋の最初の皇帝となった。
- エ 『金瓶梅』の舞台は徽宗の時代である。

問11 下線部(11)に関連して、朱熹の学説を批判した南宋の儒学者として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 王重陽
- イ 王守仁(王陽明)
- ウ 陸九淵
- エ 李贄(李卓吾)

問12 下線部(a)に関連して、王安石を宰相にした皇帝は誰か。その名前を解答欄に漢字二字で記入せよ。

問13 下線部(b)に関連して、五代の最後の王朝は何か。その名称を解答欄に漢字二字で記入せよ。

問14 下線部(c)に関連して、慶暦の和約を締結した時の西夏の君主は誰か。その名前を解答欄に漢字三字で記入せよ。

問15 下線部(d)に関連して、宋代において地主と小作契約を結んだ小作農のことを何と呼んだか。その呼称を解答欄に漢字二字で記入せよ。

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

人類の歴史がその一面において戦争の歴史であることは疑いない事実である。古代ギリシア世界もその例にもれず、数多くの戦争を経験して自身の歴史を紡いだ。なかでも、前5世紀に活躍した歴史家 A が自らの著作の題材としたペルシア戦争、同じく前5世紀に活躍した歴史家 B が叙述の対象としたペロポネソス戦争は、古代ギリシア史上の画期をなす重大な出来事である。

ペルシア戦争は、ミレトスを中心としたイオニア地方のギリシア人植民市がアケメネス朝ペルシアの支配に対して反乱を起こしたことに端を発する。この反乱をアテネが支援したために、ペルシアが報復として遠征軍を派遣してきたのである。遠征は計三度に及んだが、迎え撃つアテネを中心とするギリシア連合軍は、マラトンの戦い(前490年)、サラミスの海戦(前480年)、プラタイアの戦い(前479年)と、⁽¹⁾ペルシアの大軍を敗退させてギリシア側の勝利を確かなものとした。しかしながら、この時点で両者のあいだに講和条約が結ばれることはなかった。このため、^(a)エーゲ海周辺の諸ポリスはペルシアによる再度の侵攻に備えて、アテネを盟主とする軍事同盟を結成し、およそ200を数えるポリスを加盟国とした。アテネはその後、^(b)強大な海軍力を背景として加盟ポリスに対する支配を強め、「アテネ帝国」とも称される広範な覇権を手にすることとなるが、そのきっかけを作ったのがペルシアとの戦争であった。

アテネの国内においても、ペルシア戦争がもたらした影響は多大であった。ソロン⁽³⁾の改革(前594年)やクレイステネスの改革(前508年)などを経て、アテネでは戦争が開始される以前から民主政による国家運営の基礎はできあがっていた。けれども、これをさらに推し進める原動力となったのは、ペルシア戦争における勝利がもたらした民主政への信頼であり、戦争への貢献により増大した市民の発言力であった。こうした状況を背景に、前5世紀半ば頃に將軍ペリクレスの指導下⁽⁴⁾でアテネの民主政は完成を迎えることとなる。市民による平等な政治参加を実現するためにさまざまな措置がとられたが、とくに注目されるのは大規模な公共事業の実施である。これによって市民には労働の場と雇用の機会が提供され、賃金の支払いを通じて国富が再分配され、経済的困窮が政治参加を阻害する状況も改

世界史

善された。ペリクレスが公共事業の一環として計画した代表的な建造物としては、アクロポリスのパルテノン神殿を挙げることができる。15年の歳月をかけて完成されたこの壮麗な神殿は、アテネの繁栄を国内外に示すことにも役立った。パルテノン神殿の建設はペルシア戦争中に略奪・破壊された神殿の再建事業であったから、戦争は間接的にもアテネの飛躍に一役買ったのである。

ペルシア戦争後、アテネが次第に強大化していくのに対し脅威を覚える勢力もあった。その中心にいたのがスパルタである。スパルタはアテネと並ぶギリシア世界の強国であったが、その統治体制はアテネと大きく異なっていた。前6世紀にはスパルタを盟主とする軍事同盟が形成されており、これが急速に覇権を拡大するアテネ側の軍事同盟と衝突するのは避けられない事態であった。こうして前431年、両陣営のあいだにペロポネソス戦争が勃発した。はじめのうちは籠城作戦をとったアテネ側が優勢であったが、疫病の流行によってペリクレスを失うと、政治は混乱状態に陥った。対するスパルタ側は、かつてギリシア世界共通の敵であったペルシアと結んでその支援を受けることにより、戦争における勝利をつかんだのである。

ペロポネソス戦争の結果、ギリシア世界の覇権はスパルタへと移った。けれども、スパルタの覇権はそれほど長くつづかなかった。反感を抱く諸ポリスが国力を伸ばしてスパルタと対抗したからである。そして最終的には、レウクトラの戦い(前371年)でスパルタを破った別のポリスへと主導権は移動する。しかし、このポリスの主導権が続いたのもわずか10年ほどであり、ポリス間の抗争がやむことはなかった。ペロポネソス戦争により、アテネとスパルタという二つの覇権国によって保たれていた勢力均衡が崩壊し、ポリス社会は混迷の時代を迎えることになったのである。しかも、この機をとらえて、北方よりマケドニアが支配の手を伸ばしてきた。マケドニアは、ポリスを形成することのなかったギリシア人の一派が形成した王国であり、その王 C の時代に軍事力を大きく拡充し、やがてギリシア世界をその支配下におくこととなる。さらに、彼の跡を継いだアレクサンドロス大王の時代においても、マケドニアによる勢力圏拡大はとどまるところを知らなかった。大王によって展開された大規模な遠征事業は、ヨーロッパ・アフリカ・アジアを股にかける空前の大帝国を作り上げるにとどまらず、ギ

リシア文化を広大な領域に波及させることでヘレニズムと呼ばれる新たな文化圏を生み出すのである。

問1 下線部(1)に関連して、マラトンの戦いに関する記述として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア ギリシア側で戦いの指揮を執ったのはレオニダスであった。
- イ アケメネス朝ペルシアによる第2回ギリシア遠征時に生じた戦いである。
- ウ アテネとスパルタの重装歩兵連合軍が圧倒的多数のペルシア軍を撃退した。
- エ アテネの伝令たちが走って帰国し戦勝を伝えたことが近代駅伝競技の起源とされる。

問2 下線部(2)に関連して、サラミスの海戦に関する記述として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア アテネ艦隊を主力とするギリシア連合軍がダレイオス1世の率いるペルシア軍を撃破した。
- イ 戦いに先立ち、アテネはラウレイオン銀山からの収入をもとに、テミストクレスの進言に従って海軍力を増強していた。
- ウ アテネでは、軍船の漕ぎ手として参戦した中小農民たちが戦いの勝利に大きく貢献したため、以後彼らの国内における発言力が高まった。
- エ 海戦の主力となったのは四段櫂船とよばれる軍船であり、船首に装着した青銅製の衝角を使って敵の船体に穴をあけ沈没させる戦術がとられた。

世界史

問3 下線部(3)に関連して、ソロンの改革に関する記述として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 財産額に応じて政治参加の度合いを決定する財産政治が採用された。

イ 改革の結果、平民と貴族の社会的対立が抜本的に解消されることとなった。

ウ 平民の出身であるソロンは、平民と貴族の利害の調停者として改革を行った。

エ 改革により、負債の帳消し、債務奴隷の禁止、下層市民への土地の再分配が実現された。

問4 下線部(4)に関連して、この時期のアテネ民主政のしくみに関する記述として適切でないものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア すべての役人は抽選で選ばれ、任期は1年であった。

イ 成年男性市民の全体集会である民会が国家の政策を決定した。

ウ すべての成年男性市民は貧富の差によらず平等な参政権をもっていた。

エ 民衆裁判所では、抽選で選ばれた陪審員が投票によって判決を下した。

問5 下線部(5)に関連して、この時期のスパルタの統治体制に関する記述として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 二人の王を頂く王政をとっており、彼らが政治の実権を握っていた。

イ スパルタ市民のうちヘイロータイと呼ばれる人々が商工業に従事していた。

ウ 少数のアイオリス系スパルタ市民が、大多数の被征服民を隷属農民として支配した。

エ 市民の平等を維持するため、土地の均等分割と所有地の売買禁止が定められていた。

問6 下線部(6)に関連して、アレクサンドロス大王に関する記述として適切でないものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 幼少期の教育係はアリストテレスであった。

イ 王立の研究機関であるムセイオンを設立した。

ウ 父の死後、オリエント世界に対する東方遠征を行い、アケメネス朝ペルシアを滅ぼした。

エ 大王の死後、その後継者(ディアドコイ)を自称する武将たちのあいだで争いが生じた。

問7 空欄 に入る人物の名前を解答欄に記入せよ。

問8 空欄 に入る人物の名前を解答欄に記入せよ。

問9 空欄 に入る人物の名前を解答欄に記入せよ。

問10 下線部(a)に関連して、最終的にペルシア戦争を終結に導いた講和条約は何か。その名称を解答欄に記入せよ。

問11 下線部(b)に関連して、この同盟は何か。その名称を解答欄に記入せよ。

問12 下線部(c)に関連して、パルテノン神殿の本尊とされるアテナ女神像を制作し、神殿再建工事にもかかわったとされる人物は誰か。その名前を解答欄に記入せよ。

問13 下線部(d)に関連して、このポリスは何か。その名称を解答欄に記入せよ。

世界史

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

フランス革命とナポレオン戦争による一連の動乱を経験したヨーロッパ諸国は、1814年から1815年にかけてウィーン会議を開催した。オーストリア外相の A を議長とするこの会議で策定された、ヨーロッパの新たな国際秩序は、ウィーン体制と呼ばれる。革命の再発と新たな独裁者の登場によってヨーロッパ⁽¹⁾が再び混乱に陥ることを恐れた各国は、フランス革命以前の伝統的な絶対君主政への回帰による秩序の構築を志向し、その確固たる維持のために協調路線を採ったのである。

しかしながら、この協調路線は、ウィーン会議の進行が難航したことにも表れているように、利害が対立し牽制し合う列強間で辛うじてバランスを保っていたものに過ぎなかった。たとえば、ロシアと並ぶ強国としてウィーン体制を牽引するはずだったイギリスは、1820年代にはすでに他のヨーロッパ諸国から距離を置き、自由主義的改革を進めていった。また、ウィーン体制の埒外に置かれたオスマン帝国をめぐると問題もまた、ヨーロッパの協調に徐々に亀裂を入れていった。1821年に勃発したギリシア独立戦争から1831年以降の2度のエジプト＝トルコ戦争へと至るいわゆる東方問題⁽³⁾は、ヨーロッパの列強間での国際対立を招いたのである。そして何より、ウィーン体制のヨーロッパは、秩序維持のために自由主義⁽⁴⁾とナショナリズムの運動の芽を摘むことに腐心したが、一旦蒔かれた種の成長を完全に抑え込むことはもはや不可能だった。

18世紀末の革命の火元でありナポレオンを生んだ地でもあるフランスでは、1815年のルイ18世の即位によってブルボン朝の復古王政が樹立された。この王政は憲法に相当する「憲章」をもつ立憲君主政として歩み始めたが、1824年にルイ18世の後を継いだシャルル10世は保守反動政治を強化した。このことに反発したパリ市民は1830年に七月革命⁽⁵⁾を起こし、オルレアン家のルイ＝フィリップを新国王とする七月王政⁽⁶⁾が成立した。だが七月王政においても、選挙法改正運動の弾圧や改革宴会と称された反政府集会の禁止といった強硬策を採った首相 B への反発を発端として1848年に二月革命が起こり、王政が打倒されて第二共和政が樹立されるに至った。

この事件の影響は他のヨーロッパ諸国にただちに波及し、1848年革命と総称される運動が各地で巻き起こった。オーストリアのウィーン三月革命は ⁽⁷⁾ を失脚させるとともに皇帝から憲法制定議会の召集の約束を取り付け、プロイセンのベルリン三月革命は を首相とする自由主義内閣の成立と憲法制定議会の開催に漕ぎつけたのである。さらに、これら ドイツ諸邦 ⁽⁸⁾ においては自由主義に基づくドイツの政治的統一の機運が高まり、同年5月から開催されたフランクフルト国民議会では各邦から選出された議員が一堂に会した。しかしながら、ドイツ統一のあり方については、多民族国家であるオーストリアを版図に含めるか否かを主な争点として、諸邦の間で意見が割れた。事実、この議会の開催に前後して、オーストリアの支配下にあったベーメン(ボヘミア)とハンガリーではそれぞれチェコ人とマジャール人の民族運動が展開されたのである。チェコ人によるスラヴ・ナショナリズムが高揚したベーメンはフランクフルト国民議会への参加を拒否し、この議会に対抗する会議として、 を議長とするスラヴ民族会議を開催した。また、ハンガリーは1848年に樹立された内閣において初代蔵相となった の指導の下で、1849年にオーストリアからの独立を宣言した。さらに、同じく 1849年にはイタリア半島においても教皇領を版図とするローマ共和国が樹立されることとなった。 ⁽⁹⁾

「諸国民の春」とも称されるこれらの運動はいずれもすぐに鎮圧され、保守反動の季節へ再突入していくこととなったが、ウィーン体制の終焉をたしかに告げるものでもあった。

世界史

問1 下線部(1)に関連して、ウィーン体制におけるヨーロッパ諸国の協調路線の支柱となった理念と国際同盟に関する記述として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア フランス代表のタレーランが提唱した正統主義に基づき、ヨーロッパの国境線はフランス革命が勃発する直前の状態へと完全に引き直された。

イ イギリスが唱えた勢力均衡により、ヨーロッパの全ての国々が同程度の国力を保有することになり、対等な外交関係が構築されることになった。

ウ イギリス、オーストリア、プロイセン、ロシアを原加盟国とする四国同盟は、1818年にフランスの加盟が認められたことによって五国同盟となった。

エ ロシア皇帝アレクサンドル1世の提唱によって成立し、ローマ教皇を盟主とする神聖同盟は、キリスト教の友愛精神に基づく固い結束を謳う君主間の盟約であった。

問2 下線部(2)に関連して、1820年代以降のイギリスの自由主義的政策に関する記述として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 1824年に団結禁止法が廃止されたことによって、シン＝フェイン党が合法化された。

イ 1828年に審査法が廃止されたことによって、非国教徒のプロテスタントに公職就任への道が開かれた。

ウ 1832年に選挙法が改正されたことによって、21歳以上の男性が納税額の多寡にかかわらず選挙権を獲得した。

エ 1833年に工場法が制定されたことによって、18歳未満の工場労働者も就業時間の制限なく働くことができるようになった。

問3 下線部(3)に関連して、1840年に第2次エジプト＝トルコ戦争の解決のために開かれたロンドン会議に参加し、ロンドン四国条約を結んだ国の組み合わせとして最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア イギリス・オーストリア・フランス・ロシア

イ イギリス・オーストリア・フランス・プロイセン

ウ イギリス・オーストリア・プロイセン・ロシア

エ イギリス・フランス・プロイセン・ロシア

問4 下線部(4)に関連して、ウィーン体制下のヨーロッパで展開された運動に関する記述として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 1815年に結成されたブルシェンシャフトは、1819年のカールスバート決議でドイツの自由主義的統一を求める綱領を発した。

イ 1820年にリエゴ(リェーゴ)を指導者として起こされたスペイン立憲革命は、カデイス憲法(1812年憲法)の復活を目指した。

ウ 19世紀初頭にマッツイーニを指導者として結成されたカルボナリは、1820年代の初頭にナポリなどのイタリア半島各地で武装蜂起した。

エ 1825年のロシアでは、アレクサンドル2世による農奴解放令に反発する貴族の青年将校たちが、デカブリスト(十二月党员)の乱と呼ばれる蜂起運動を展開した。

世界史

問5 下線部(5)に関連して、シャルル10世がおこなった政策に関する記述として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア ルイ＝ブランの発案によって設置された国立作業場を閉鎖した。
- イ 出版の自由を制限し、新聞などの定期刊行物に対する検閲を強化した。
- ウ ルイ18世が推し進めた政教分離政策を反故にし、カトリックを国教化した。
- エ 1830年5月から開催されていた議会を、同年7月の勅令によって上院・下院ともに解散させた。

問6 下線部(6)に関連して、フランス七月革命の様子を描いた芸術作品の中で最も著名なものの一つにドラクロワの『民衆を導く自由の女神』があるが、この絵画中の「自由の女神」が身に着けているものとして適切でないものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 胸甲
- イ 三色旗
- ウ フリジア帽
- エ マスケット銃

問7 下線部(7)に関連して、1848年という年はマルクスとエンゲルスの『共産党宣言』の発表年であるという点でも世界史的な重要性を有していると言えるが、「科学的社会主義者」を自称したエンゲルスが「空想的社会主義者」と呼んで批判の対象とした人物の名として適切でないものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア オーウェン
- イ サン＝シモン
- ウ フーリエ
- エ ベルンシュタイン

問8 下線部(8)に関連して、ドイツ諸邦の間では、政治的統一に先立って、1834年に発足したドイツ関税同盟によって経済的統一の下地が整えられつつあったが、この同盟の結成に直接的に寄与したと言える人物として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア フィヒテ イ ヘーゲル ウ ランケ エ リスト

問9 下線部(9)に関連して、その後のイタリア半島で展開される統一運動の象徴になったと言われることもある、『ナブッコ』『リゴレット』『椿姫』を代表作とする音楽家として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア ヴィヴァルディ イ ヴェルディ
ウ プッチーニ エ ロッシーニ

問10 文中の空欄 ～ に入る最も適切な人物の名を、ファミリーネーム(姓)のみ解答欄に記入せよ。